

令和6年8月28日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

近江八幡市長 小西 理

市町村名 (市町村コード)	近江八幡市 (252042)	
地域名 (地域内農業集落名)	長田町 (長田)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月23日 (第1回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

現在、長田地区は一集落一農場方式として98%の農地(田)が農事組合法人愛農の郷おさだに集積されている。残り2%の農地も農地耕作条件改善事業の取組により、愛農の郷おさだに集積する計画をしている。今後は、農作業のさらなる効率化を図るため、入作者との作付け調整や耕作者の調整を進める必要がある。愛農の郷おさだについては、米価の低迷や資材費の高騰により経営が圧迫されていること、また臨時雇用者が高齢化していることから、今後の労働力不足が懸念される。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・水稲、麦、大豆を主要作物とし、団地化を形成し作業の効率化を図る。
・令和5年度からJA担い手コンサルティングのソリューションに基づき、黒字品目の拡大をするために生産調整率を50%とするなど、収支の改善に取り組んでいる。
・臨時雇用者の減少や高齢化に対応するため、可能な農地は区画拡大を実施するとともに、毎年栽培方法や各作業の効率化の見直しを行っている。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	67 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	67 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

集落での利用が行われる範囲を表示している。隣接する集落との協議により、変更の場合がある。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
地域内所有者の農地の98%が担い手に集積・集約化されており、令和8年度までに100%を達成する予定である。 入作者の農地については、今後調整していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
令和4年以降、ほぼすべての集落内農地を農地バンクに貸し付け、担い手へ集約化している。
(3)基盤整備事業への取組方針
農地耕作条件改善事業により、令和3年度から5年度に区画拡大や畦畔ブロック設置、法面の修復補強事業を実施した。令和7年度以降に引き続き区画拡大等の事業を実施するため、令和6年度末に事業採択申請を行う。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
将来的には、地域内外から多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
作業の効率化が期待できる除草剤散布や摘芯作業は山梶農園へ、防除作業は徳田チームへの委託を継続する。 また、穂肥散布については、山中農産への委託を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

②環境こだわり米の栽培を継続する。
③圃場の大区画化に伴い、また作業品質の向上のため、農業機械の更新期にはGPSを搭載した農業機械の導入を検討する。